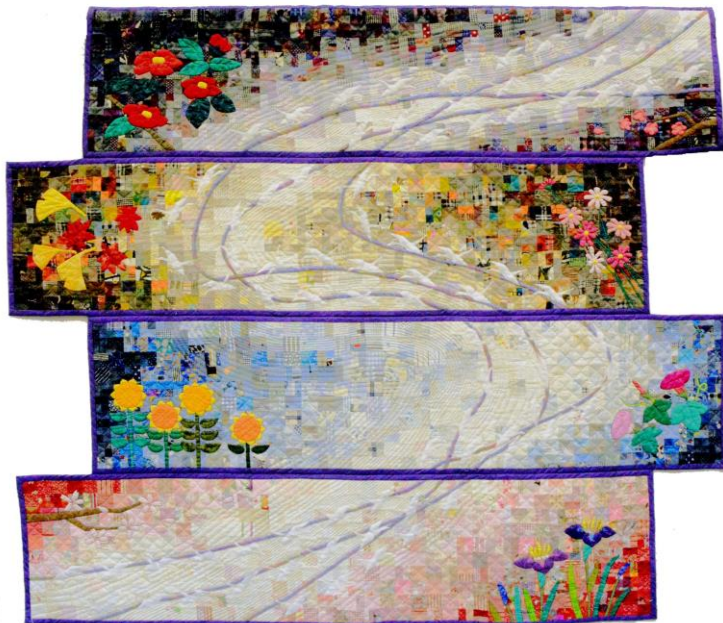
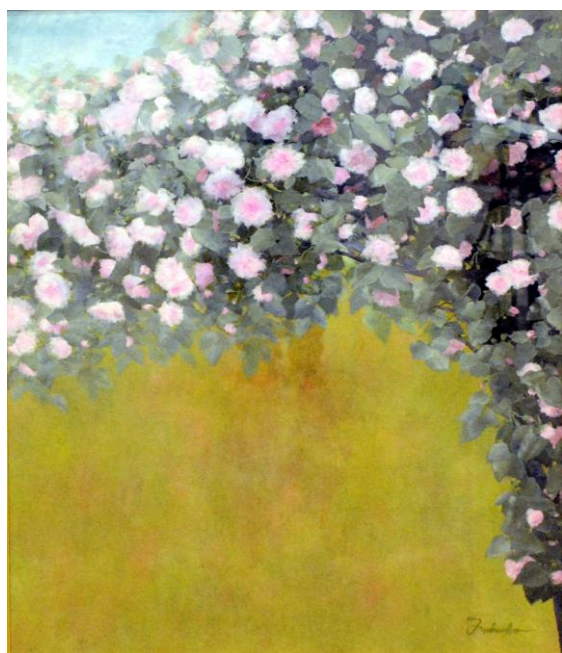


66th NOBEOKA 市美展

入賞 入選目録



彫刻工芸部門 特選 「季節巡り」



日本画・水墨画ちぎり絵等部門 特選
「甘い香りに抱かれて」



写真部門 特選
「田の神祭り子供たち」

会期:平成28年7月2日(土)~7月15日(金) 【休館日:7月5日(火) 7月12日(火)】
会場:延岡総合文化センター展示室1・2 【開館時間:AM 9時 ~ PM 5時】
主催:第66回延岡市美術展覧会実行委員会・延岡市・延岡市教育委員会・延岡市文化連盟

◇ 後 援 (順不同) ◇

宮崎県・宮崎県教育委員会・延岡市議会・延岡商工会議所・(一社)延岡市医師会
延岡農業協同組合・(一社)延岡市西臼杵郡薬剤師会・旭化成(株)延岡支社
センコー(株)東九州主管支店・清本鐵工(株)・宮崎日日新聞社・夕刊デイリー新聞社
(一社)延岡市歯科医師会・延岡ロータリークラブ・延岡中央ロータリークラブ
延岡東ロータリークラブ



洋画

特選	延岡市長賞	田中節子	祝福	油彩
準特選	延岡市文化連盟会長賞	高橋絵美里	風刻	鉛筆
準特選	延岡市教育長賞	野村幸枝	山に生きる	油彩
奨励賞	延岡市議会議長賞	落合直文	二重奏	油彩
奨励賞	夕刊デイリー新聞社賞	林弘之	歳月	アクリル
奨励賞	清本鐵工(株)社長賞	上野楓華	夕暮れ	油彩
奨励賞	延岡ロータリークラブ 会長賞	赤澤隆	古民家	油彩
努力賞		原浪代	ママ、おさかながいるよ	水彩
無鑑査		後藤光雄	長〜い夜	アクリル
無鑑査		工藤晏生	pumpkin	アクリル
無鑑査		八木隆幸	まるの詩2016・4〜A	油彩
無鑑査		クリストファー トラウトマン	偶然の出会い	インク



入 選



赤星岳	樹林	アクリル	佐藤幸義	夜明け(穏な日日を)	油彩
荒金辰夫	ふるさとの秋	油彩	志田嘉嗣	内藤記念館の茅葺屋根	油彩
池田見一	阿吽	油彩	首藤孝子	追懐	油彩
石田敏子	ONE FOR ALL ALL FOR ONE	油彩	白石幸代	春の訪れ	油彩
岩崎奈美子	綾競馬	油彩	水津保	ボデーと自画像(B)	油彩
上田なつめ	夢喰いウサギ	アクリル	杉本晃一	拝啓 新緑の候	油彩
上原順子	安心毛布	油彩	成合英子	造船所の台車	水彩
上山晴久	TP-16-1(存在)	油彩	畑田禮子	もう大丈夫	水彩
大久保安一	コウ婆さん	水彩	廣瀬貴至	25番目の始動	油彩
大坪眞佐子	K氏の想い	油彩	松田武雄	「LIFE」(鬼の目杉、上鹿川)	アクリル
大山久雄	薫風の季節の中で	油彩	三浦憲治	ふるさとの港	油彩
甲斐トシ子	日だまり	アクリル	三谷文男	睦月	-
甲斐美保	荒踊り(五ヶ瀬町)	油彩	三橋良男<Sea>	emerald crown	色鉛筆
川内寧彦	街並み	水彩	八木千穂子	庭園 XII2016.6	水彩
川崎圭子	夢と希望に向かって	油彩	柳田佳代	静かな刻	水彩
久保ケイ子	ひまわり	油彩	山崎郁夫	伊福形神社の春	水彩
小池澄	荒磯	水彩	吉本悟	春の浦城川	水彩
古小路禮子	なかよし	水彩	陸丸敦子	水郷延岡	油彩

日本画・水墨画・ちぎり絵等



特選 延岡市長賞 森 福 子 甘い香りに抱かれて ちぎり絵

努力賞 湯地 イチイ 紅 梅 ちぎり絵

無鑑査 原 辰 義 夜 明 け 剪画

入選 岩切 恵美子 夏ものがたり ちぎり絵

岡田 洋子 築 ちぎり絵

甲斐 宣興 聖ヨハネ教会堂 切絵

後藤 三枝子 ひまわり 日本画

佐藤 藤美 春日通りの桜 水墨画

富高 富子 一重咲きの薔薇 ちぎり絵



彫刻・工芸



パッチワーク

特選	延岡市長賞	宮田 泰子	季節巡り	
準特選	宮崎県教育長賞	壺岐 陽子	娘へ	友禅染
奨励賞	旭化成(株) 延岡支社長賞	工藤 武人	灰かぶり土瓶	陶芸
奨励賞	延岡市医師会長賞	坂本 真理	交差点	型染
奨励賞	センコー(株) 東九州主管支店長賞	岩谷克二(峰山)	鬼瓦	彫刻 (瓦)
努力賞		森本 陽子	昭和の夕暮れ	ミニチュア
無鑑査		芝 行 則	変化Ⅱ	彫刻
無鑑査		中村 有子	キンサイキカモン ロシ、ソウキ 金彩幾可紋「路地草器」	陶芸
無鑑査		武田 弘子	あふれる喜び	友禅染

入 選

石川 ハル子	ギリシャに魅せられて	パッチ ワーク	関 武 司	雪崩	陶芸
井 上 敦	満開	草木染	高 見 昭 夫	涼	竹細工
岩 谷 直 子	母の想い	雛飾り (和紙)	田 上 多 津 美	マーガレット	友禅染
甲 斐 富 美 子	空からの贈りもの	パッチ ワーク	田 口 京 子	さくら咲く	友禅染
甲 斐 正 行	天狗	彫刻	田 村 治 助	妖犬	樹根
川 崎 え つ 子	水無月の大輪	刺繍	戸 畑 由 美 子	ウォーターマーク	刺繍
黒木英勝(英心)	窯変瓶 文月雨	陶芸	平 原 正 一	風の鎮魂歌	陶芸
興 梶 太 朗	深山幽谷	陶芸	武 藤 勝	練込鎔紋水指	陶芸
興 梶 富 美 香	ひまわり(ワンピース)	友禅染	山 本 正 義	景清	能面
白 瀬 叔 子	壽ほぎ	友禅染			



グラフィックデザイン

特選	延岡市長賞	松崎空	あつたらしいなこんなこと
準特選	延岡市教育長賞	松本日菜子	あなた自身はどうですか？
奨励賞	宮崎日日新聞社賞	金本優弥	カートぐちゃぐちゃ
努力賞		河原力也	幸せな家族

入選

荒川智紀	内閣交響楽団	高須賀杏花	浦島ふとつ太郎
梅木三千世	へべすの香水「HEBEZ」	濱田優海	美味しい話は…
佐々木晴香	今どきの公園	古川友江	澄み渡る流れ
末吉祐太	紙が泣いている	宮下沙也加	働きものの憂鬱
杉本和音	願いを.	森光真理愛	warning



書道

特選	延岡市長賞	植野寿美	ジエン 寿泉	セイケイニシユクス 宿青溪
準特選	延岡市文化連盟会長賞	中須昭子	ショウエン 昭苑	シャジュウキン 謝重輝詩
準特選	延岡市教育長賞	小野静	レイカ 麗華	ユウジンノオクヘキニシヨス 書友人屋壁
奨励賞	延岡市医師会長賞	伊藤由美子	シュンカ 春華	若山牧水の歌8首
奨励賞	延岡市西臼杵郡薬剤師会長賞	城戸雅子	フスイ 富翠	コシュ 枯櫻
奨励賞	延岡東ロータリークラブ会長賞	池田文恵	ケイスイ 恵翠	ボシユン 暮春
奨励賞	延岡市美術展覧会実行委員長賞	甲斐多美子	ショウケイ 祥景	シンワウノグワウマノヅ 申王畫馬圖
努力賞		難波和恵	ハクシュウ 柏舟	チョウサノミチ 長沙の道







招待作家	岩	下	基	春来 <small>シュンライ</small>	楊琯 <small>ヨウカン</small>
招待作家	大	塚	洋子	葉風 <small>ヨウフウ</small>	萬山 <small>マンザン</small>
招待作家・無鑑査	西	村	香枝子	和香 <small>ワカウ</small>	折楊柳 <small>セツヨウリュウ</small>
無鑑査	植	野	春雄	聖鳳 <small>セイホウ</small>	紀映鐘詩 <small>キエイショウシ</small>
無鑑査	西	村	寿洋	玄洋 <small>ゲンヨウ</small>	舟行 <small>シュウコウ</small>
無鑑査	山	浦	秀子	柏秀 <small>ハクシュウ</small>	次韻前篇 <small>ジインゼンペン</small>
招待作家	原	田	さゆり	桑峰 <small>ソウホウ</small>	客中春晚 <small>キヤクチュウシュンパン</small>

入 選

青柳有伸	有玄	李頎詩	黒木正子	霞葉	白居易詩
荒卷孝行	大心	殫智竭力	小坂千代子	千草	林章詩
上杉実妃	珠光	ひぐらしのなく	坂本淳	静峰	惟意是適
上野和子	和風	今も見て	佐藤ナオミ	翔華	遊春
植野幸雄	竹山	杜甫詩	篠原和子	和葉	月下對酒
植野洋一	桂石	王維詩	年森恵	祥雲	雜詩
上原幸子	香玉	新野即景	中田由美子	聖泉	帳翫詩
岡崎亜希子	一華	李裕詩	新名美幸	秀瑛	過、横顧山人草堂
岡田雅子	桃紅	高適詩	西田幸市	天外	陶秘書廣陵話別図・楊氏山莊
岡村公子	瑛翠	張廷璐詩	古田勝太	勝柏	天台曉望
小田千穂	紅扇	恋わたる	三浦律子	柏寿	野アザミの花
甲斐かおり	香風	晩投清江浦	矢野稔子		登塔
甲斐タヅ子	柏苑	迴流山	山下昭良	祥泉	楽以忘憂、從吾所好
甲斐睦子	柏葉	鐵券の歌	山本加代	涛香	送人之巴蜀
甲斐洋子	春宵	何良傳	吉岡陽子	陽亭	上巳日感懷
川越幸枝	祥香	高青邱詩	米田忠雄	祥雲	自丹陽放舟赴江陰道中作
河内真弓	柏真	長安有狭斜行	渡部史子	史峰	憶昔二首
城戸裕行	鳳翔	趙之謙の書			



写真



特選	延岡市長賞	宮崎金男	田の神祭り子供たち
準特選	宮崎県知事賞	高島章碩	夜の瀬音
準特選	延岡市文化連盟会長賞	山田悦子	花粉まみれ
準特選	延岡市文化連盟会長賞	西原知里	不安
準特選	延岡市教育長賞	甲斐靖一	突進
奨励賞	延岡市議会議長賞	春口五男	朝日を浴びて
奨励賞	旭化成(株)延岡支社長賞	井上政範	早朝に映える
奨励賞	延岡商工会議所会頭賞	田上誠	growth
奨励賞	延岡農業協同組合代表理事組合長賞	新名光子	襲撃
奨励賞	延岡市歯科医師会長賞	菊池貢	追憶の炎
奨励賞	延岡中央ロータリークラブ会長賞	甲斐勝子	出番前
奨励賞	延岡市美術展覧会実行委員長賞	川野政弥	ささえあう
努力賞		重黒木周作	MSG
無鑑査		高橋ミサ子	宴のあと
無鑑査		後藤司郎	渚のドラマ





入 選

浅野 岳 志 夜の大水車
阿部 節 子 早乙女
有馬 常 行 流鏑馬
飯干 幸 一 しずく
池田 晃 二 がんばったね
伊東 英 一 春を描く
岩切 恵美子 俺達ひょうきん族
岩倉 一 紘 暇な時間
植野 浩 人 絶体絶命
歌津 利 幸 フィナーレ
大石 隆 治 ホースパワー
大川内かつ子 春の競演
大山 久 雄 漁場からの帰航
岡崎 宏 之 少女
緒方正 光 連れ添い(オンドリ)
岡野 勉 仲良し兄妹
小川 忠 之 悠久の営み
押方 徹 もうかりますかっ? !
乙部 武 志 神楽舞
甲斐キヌエ 神楽舞
甲斐 民 人 祈願祭
甲斐 直 志 霧雨に舞う
甲斐 均 田植え
笠村 陽 一 勘違い
川越 洋 治 曾我物語の行燈を持つ女
川路 澄 夫 夫婦舟
河野 康 哉 夕景の印象
川端 章 思い出の夏
北村 富士夫 光さす
幸崎 善五郎 団欒
児玉 美智子 落葉のロンド
木場 豊 子 すーい すーい
小松 清 春 春爛漫
酒井 義 満 里の春

坂元 利 子 行
坂脇 昭 吉 ご馳走狙い
笹田 照 夫 海へ
佐藤 孝 夫 ホタルのライトアップ
佐藤 卓 志 冬の華
佐藤 傳 春爛漫
周防 政 幸 浜辺の空
すぎたかお 旅立ち
鈴木 久 人 ぼくが守る!
雀ヶ野 秀 憲 このひとなにするひと?
田口 恵 子 夏の輝き
田崎 淳 峠の夜桜
田爪 徳 藏 ビニール畑に豊作祈祷
田中 芳 典 春爛漫
段ノ上 三 男 星空と競演
富山 恵 視線
長友 道 生 山燃ゆ
中村 康 政 静か
馬場 和 久 碧の世界
林喜代 徳 追憶
平原 正 一 天照光臨
堀田 宗 範 のべおか「第九」開演直前
松尾 香代子 ひととき
御手洗 実 切干光る
宮本 哲 伸 静寂
持原 弘 和 春の夜の夢
守田 敏 和 ふたりの世界
守田 陽 子 元気でたくましく
柳田 実 男 疾走
結城 豊 廣 船溜まり夕景
横山 守 ひと夏の経験
吉村 俊 祐 Magic Hour
和田 章 良 廃色
渡辺 命 平 僕も負けないぞ

審 査 講 評

審査員の氏名は、敬称を略させていただきました。

【洋画部門】

北九州市（画家） 安田潤児

私はこの度三回目の審査の機会をいただき身にあまる光栄に大変感謝し嬉しく思っています。2002年、2012年、今回で三回目です。

審査を通じて感じた事を書かせていただきます。いつも感じる事ですが、どの作品も独自の方法で完成度の高い作品に仕上がっているのに感心させられます。今回も会場のスペースの関係上多くの作品を選外とせざるを得ない厳しい審査となりました。それぞれ優劣をつけがたく選ぶのに大変苦労しました。受賞作品も同様にどの作品を特選に選ぶか悩みました。その結果特選に田中節子さんの「祝福」に、母親と子供の愛情あふれる親子の絆を深く感じる秀作です、と同時に空間処理のうまさも、準特選の「月刻」エンピツによる独創的で技術的にもすばらしい大労作です。次に「山に生きる」延岡の風を感じる、描き続けてほしい作品です。奨励賞では「二重奏」音楽が聞こえて来そうなさわやかな色調と見る人を楽しませてくれる作品ですばらしい。「歳月」確かなデッサンに裏打ちされた力強いタッチと構成力ですばらしい。「夕暮」さわやかで広い空間の中にもうまく後ろ姿の女性を取り入れた空間処理のすぐれた作品。「古民家」生活感を感じる、そこに居る人しか描けない作品に仕上がっていてすばらしい。努力賞「ママおさかながいるよ」ほほえましく心あたたまる作品ですばらしい。

審査を終えて感じた事を書かせてもらおうと、自分の作品を人に見てもらってその作品は完成する、そして貫禄がついて帰ってくる、と私は思う。いくつになっても夢を持って作品を描き続け、夢を追い続け夢を叶え続けそして夢を残し続けて行く事を望んで筆を置きます。延岡市美術展覧会のますますの発展を期待します。

【日本画・水墨画・ちぎり絵等】

熊本市（画家） 姫野 豊

作者が作品をつくりあげる際には、対象から受けた感動や意図にしたがってどのような形式をとりあげ、どのような材料を使うのがよいかという様々な条件についての認識を深める必要があります。正にこの部門の多様性や可能性は延岡市美展の特徴であるとおもいます。しかし今回の出品作品を見ますと、表現型式に偏りがみられたのは初めてのことであり、選者として戸惑いをおぼえました。しかし、それぞれ

が対象の美しさを主体的にとらえ、造形の要素を駆使して組立ていく方向性は堅持されていたのは一種の安堵感としてのこりました。

延岡市長賞「甘い香りに抱かれて」は、ちぎり絵の特徴を生かして、色彩の深みを技術で表現し、単調になりがちな構図を補完しているのは見事です。また、左上隅の空の色の配色は作者の感性を垣間見ることができます。努力賞「紅梅」は、古木と花をモチーフにして積年の生をおもわせるとともに、絵画におけるエスプリの表現になっていることに共感を覚えました。

☆☆☆－展示壁面の都合で涙を呑まざるを得なかった作品について――。

「行膝名瀑」大画面の水墨画です。墨の五彩といわれるように、墨色に変化をつけて岩ばしる水勢に重きをおいて名瀑の特徴をしぼってはどうか。また、縦長の構図(または紙面の形)を選んで高低差を強調してはと思いました。そうすれば一層“点景人物”が効果的になると思います。

「想い」「ものの違い」を切り絵でよく表してあります。着色してある青や赤で幻想的な雰囲気をもたせながら、黄色や赤の横のシマで空間感を演出しています。エッシャーなどの作品を参考にして新しい剪画をつくりだしていくと目ざす世界が一層広がるのではないのでしょうか。

【彫刻・工芸部門】 福岡市（彫刻家・九州造形短期大学教授）小田部 黄太

本年は彫刻作品の出品がなく、その点はやや残念であったが、出品作は力作ぞろいで審査は大変悩ましいものであった。彫刻・工芸部門ということであるが、審査会場で出品作を拝見し、作品の傾向、技法、作者が向いている方向も実にさまざまであり、しばし考え込んでしまった。しかしながら、一つひとつの作品と真摯に向き合い、表現者であり鑑賞者でもある私自身の全霊をかけて審査にあたらせていただいた。

延岡市長賞の「季節巡り」はパッチワークの力作であり、四季を彩る色彩、色使いが素晴らしく、今回の多くの出品作の中でも一際目を引く存在であった。宮崎県教育長賞の「娘へ」は今回も多く出品されていた染色の作品の中でも、特に存在感のある作品であった。百合の花の描写、葉の色使い、黄色の胡蝶蘭の差し色と力強く美しい表現となっている。奨励賞の「灰かぶり土瓶」は確かな力量と堅実な表現力に支えられた力作であるが、切り株の台座などの見せ方が作品の見え方を限定しすぎているかもしれない。奨励賞「交差点」は型染めの秀作である。抑えた色数と大胆な構成でダイナミックに動きや空間まで表現されている。奨励賞「鬼瓦」は立体的表現の彫刻的な力強さもあり、存在感のある作品である。台座はもう少しシンプルに作品自体を見せる方法もあるかもしれない。「昭和の夕暮れ」は他の作品とはまた違った傾向の作品であるが、その作品の隅々から作者の優しい気持ちがあふれ、我々が忘れてはいけないことを思い起こさせる温かい作品であり、努力賞に選ば

せて頂いた。

入選数も限られており、2点出品の取り扱いなどもあり、落選とさせていただいた作品にも見るべきものも多く、つらい選択であった。ひとこと申し上げれば、制作はただ造るのではなく、その作品で何を表現するのかという事に、今いるところから一歩でも二歩でも踏み出していけるか、そして作品のクオリティに妥協しない、ということが大事ではないかと感じました。

【グラフィックデザイン部門】 福岡市（グラフィックデザイナー）西島 雅幸

力作揃いの作品が多い中、作品の深さに見ていてとても心地いい気がしました。

結局時代の多面性を反映して、素朴なものからハードなものまで、技術も多種多彩の賑やかな作品群となったようです。賞に入られた作品は、御本人が体裁よくまとめたりするのではなく、楽しみながら伸び伸びと制作した姿がうかがわれ、なるほどと思わせる作品に仕上がっていました。

特に延岡市長賞の「あったらいいなこんなこと」はユーモラスなテーマに大胆なイラストレーションと迫力ある構図に感心させられました。延岡市教育長賞の「地震の備えに自信あり」は現に大分・熊本の災害があったばかりなので、とてもタイムリーで心にグサツとききました。宮崎日日新聞社賞の「並べたくなるのは私だけ？」はイラストも上手く日常的な場面を配しながら、作品の質の高さに感心させられました。

日本中のデザインが、どれも同じ様なものになりそうな時流の中で、個性あふれる作品「風土の中に生きる独自のデザイン」に数点出会えた喜びと選考委員として、私にそのスペースを与えて下さった事に感謝申し上げます。最後に入賞された方々の一層の精進と延岡市美展の益々の発展を心より祈念いたします。

【書道部門】 福岡市（日展会友・読売書法会理事）野中 朱石

平成十六年、十九年に次いで今回三回目の審査をさせて頂きました。前回から九年が経ちましたから、今回はどんな作品に出逢えるのだろうか楽しみでした。審査はあくまでも作品本位で行いました。出品作全般に言える事は、古典をベースにしての自己表現を試みる作風が殆どであり、好ましい傾向にあると申せましょう。このことは前回と同様で違いはなく、堅実な道を一步步歩み続けておられる姿として眼に写りました。ただ、裏をかえせば惰性に走り作品に安易に取り組むことにもなりかねず、「新鮮味」や「緊張感」に欠けることにも繋がりますので気をつけなければなりません。今回は、力

はある人と見うけられるのに書き込み不足の作が数点は見られ残念に思いました。

一方、選外の作品の中にも数点は入選作に引けをとらぬものがありました。が、点数に限りがあり「止むなし」の涙を飲まざるを得ませんでした。また来年、捲土重来を期して頂きたいと思います。

上位の作についての感想は、〈特選〉植野寿泉さま 筆圧が利いて線強く立体感があり、行間もスッキリとして流れもよく健康的な秀作である。〈準特選〉中須昭苑さま 丁寧に細部にまで神経が行き届いた作は密度の濃い緊張感があり白が美しい。〈準特選〉小野麗華さま 懐大きく筆よく活躍している。墨もよく入り筆脈通ってリズム感のある優作である。

【写真部門】

東京都（写真家） 安珠

初めて訪れたのどかな風景の延岡。美しい五ヶ瀬川に美味しい食事、地元の方の笑顔に癒されて、審査会場へ向かいました。ですが、その気分もつかの間。審査会場に入ると、応募作品に圧倒されたのです。

自然に恵まれた延岡ですが、自然が主体の穏やかな風景写真は一枚もなく、情熱的で、好奇心にあふれた写真群が並び、撮り手の視線を感じる「ずばな作品」ばかり。延岡市美術展覧会の質の高さに驚きました。

人物描写に長けている作品の多い中で、特選の宮崎さんの作品は、背景や光の配慮が抜群で、何より、三人の子どもの無邪気な祭りの喜びが感じられ、このお祭りが伝承されていく安心感さえも伝わりました。準特選の地元ならではの鮎漁の高島さんの作品は、モノクロにしたことによって波の揺らぎがグラフィカルに演出されているだけでなく、人物の下を向くしぐさに人間味の深さも感じます。

残念に思ったのは、規定に満たなかったことで落選された作品です。どんなに素晴らしくとも発表された作品、もしくはその類似作品は審査前に実行委員会のほうで落とされてしまいます。実力ある皆様ですから、未知の作品で更に、延岡の写真の力を向上させてくださいませ。これからも延岡の写真の力を楽しみにしています。多くの「ずばな作品」をありがとうございました。



◆第66回『延岡市美術展覧会』作品出品状況

※（ ）内は昨年度

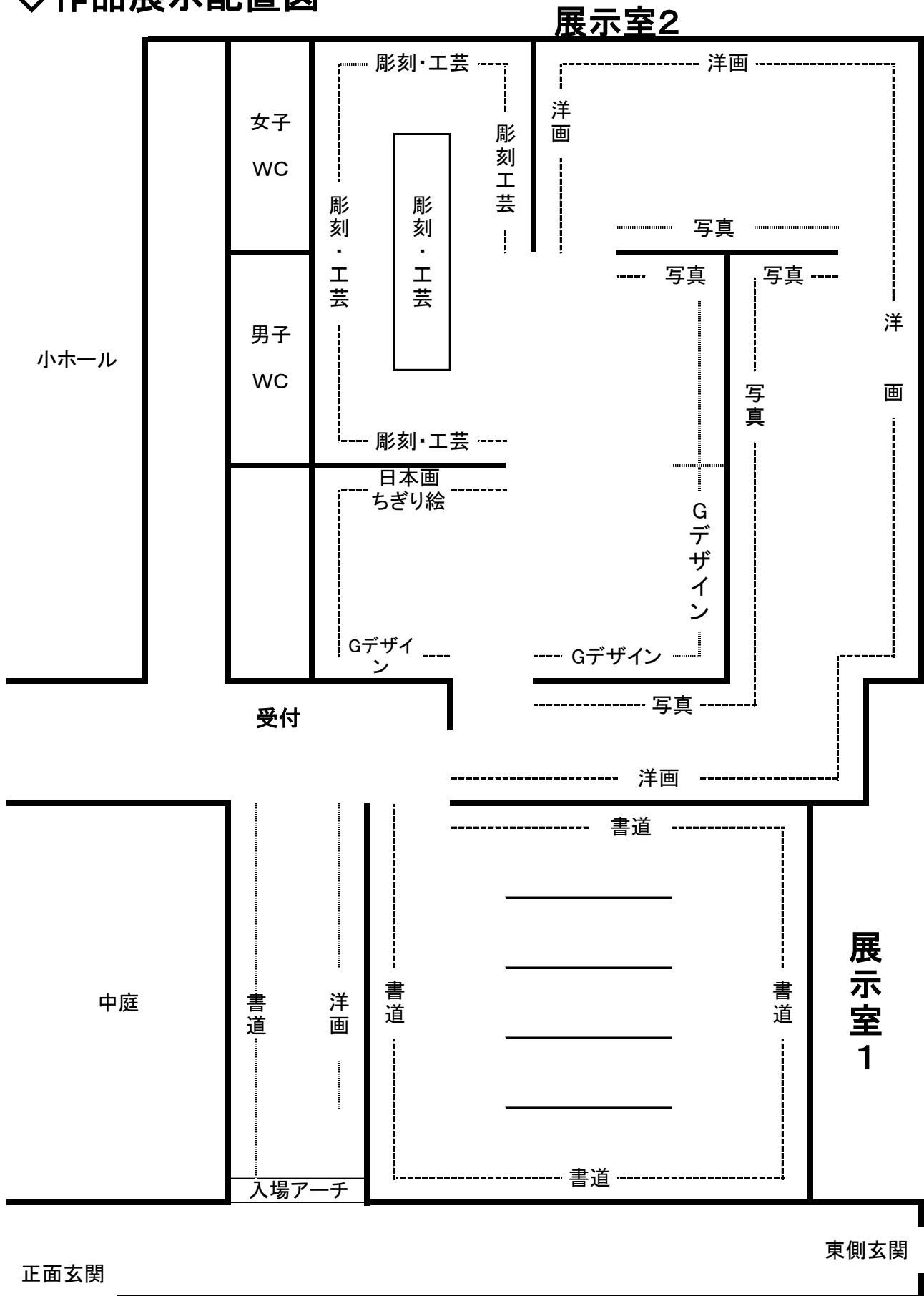
部 門	出品者数		出品作品数			C 招待作家 無鑑査	合計 (無鑑査等含む)	
	A	うち2点 出品者	一般	学生	B 小計		出品者数 A+C	作品数 B+C
洋 画	59 人 (65)	7 人 (13)	61 点 (61)	5 点 (17)	66 点 (78)	4 人 (3)	63 人 (68)	70 点 (81)
日本画・水墨画 ちぎり絵等	10 人 (18)	2 人 (1)	12 点 (19)	0 点 (0)	12 点 (19)	1 人 (1)	11 人 (19)	13 点 (20)
彫刻・工芸	33 人 (25)	8 人 (7)	41 点 (32)	0 点 (0)	41 点 (32)	3 人 (3)	36 人 (28)	44 点 (35)
グラフィックデザ イン	19 人 (7)	0 人 (0)	4 点 (3)	15 点 (4)	19 点 (7)	0 人 0	19 人 (7)	19 点 (7)
書 道	57 人 (68)	0 人 (0)	56 点 (64)	1 点 (4)	57 点 (68)	7 人 (6)	64 人 (74)	64 点 (74)
写 真	108 人 (111)	42 人 (43)	150 点 (153)	0 点 (1)	150 点 (154)	2 人 (1)	110 人 (112)	152 点 (155)
合 計	286 人 (294)	59 人 (64)	324 点 (332)	21 点 (26)	345 点 (358)	17 人 (14)	303 人 (308)	362 点 (372)

※〈招待作家〉…全国規模の公募展で、顕著な結果を残された方の作品

※〈無鑑査〉…「特選 延岡市長賞」を通算3回受賞された方の作品

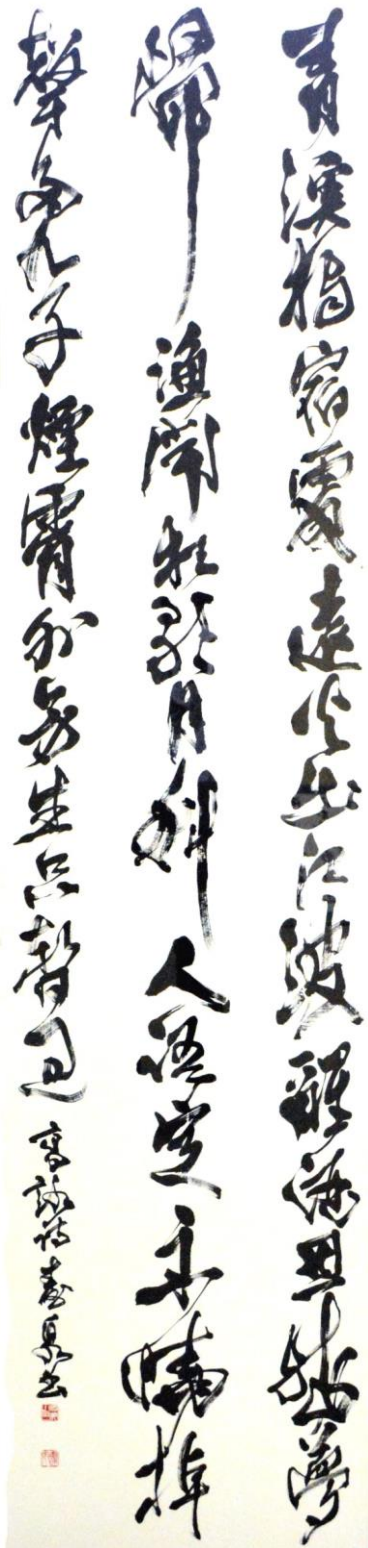


◇作品展示配置図





洋画部門 特選「祝福」



書道部門 特選「宿青溪」



グラフィックデザイン部門 特選
「あったらいいなこんなこと」